

【2022 年度/専門科目領域/専門科目群/人間コミュニケーション学科・福祉心理学科】

科目名	ナンバリング	区分 (必修・選択)	単位数	履修年次	開講学期等
相談援助実習指導Ⅱ		選択	2	3	前期・後期
担当教員	研究室	電子メール ID	オフィスアワー		
梅沢 佳裕 他	B310	y.umezawa	水曜日 12:10~13:00		
授業の目的・概要	<p>&lt;目的&gt;相談援助実習に関する理解を深め、学生自身の実習の意義、目標、課題を明確にし、実習計画を立てることを目的とする。</p> <p>&lt;概要&gt;実習施設に関する特性や・施設概況・実習先の地域について文献やインターネット等を活用し調べ学習を行い、実習生として実習計画を立て意識的に実習に臨むための準備を対面授業を通じて習得する。実習計画書の作成にあたっては、個別・グループと双方向のやり取りを行いながら進めていく。</p>				
授業形式・方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面授業 <input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> PBL <input type="checkbox"/> 反転授業 <input checked="" type="checkbox"/> ディスカッション・レポート <input type="checkbox"/> 遠隔授業(双方向型) <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技 <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 実習・フィールドワーク <input type="checkbox"/> 遠隔授業(自主学習) <input checked="" type="checkbox"/> その他 ( 個別演習 )				
学習上の助言	実習指導Ⅰにおける学びをもとに、実習の意義について理解を深め、実習先とその地域に関する学習を行い、実習の目標と課題を具体的に設定することを目標とする。予習・復習を十分に行ったうえで授業に参加することが求められる。				
教科書	ソーシャルワークを学ぶ人のための相談援助実習/監修：日本福祉大学社会福祉実習教育研究センター/中央法規出版。学外実習の手引き (学内発行)。				
参考書	授業内で適宜紹介する。				
外部教材	特になし。				
学生が達成すべき行動目標				関連卒業認定・学位授与方針	
①	実習先と、実習先の利用者、職員、ソーシャルワーク、地域について説明できる。			HSU(1)、WP(1)、WP(2)	
②	自分自身の実習の意義 (目指す社会福祉士像、習得する力等) を説明することができる。			HSU(4)、HSU(6)、WP(1)	
③	自分自身の実習で達成すべき課題と、課題達成のための方法を設定することができる。			HSU(6)、WP(1)、WP(2)	
④					
授 業 計 画					
回	学習内容等	授業の方法	学習課題・学習時間 (時間)		
1	オリエンテーション (指導の進め方、評価に関する説明) 相談援助実習に関する理解①実習の意義に関する理解を深め、考察する。実習の仕組みと流れ、心構えについて理解する	講義	「学外実習の手引」を熟読する。	4	
2	相談援助実習に関する理解② 実習先と地域に関して理解する。	講義	「実習施設情報」を作成する。	4	
3	実習先に関する理解① 実習先に関する理解を深める。	講義		4	
4	実習先に関する理解② 実習先の利用者に関する理解を深める。	講義		4	
5	実習先に関する理解③ 実習先の職員に関する理解を深める。	講義		4	
6	実習先に関する理解④ 実習先のソーシャルワークに関する理解を深める。	講義		4	
7	実習に関する理解① 実習終了者の報告を通じて、目標・課題を考察する。	講義		報告から学んだ自分自身の課題をまとめる。	4
8	実習に関する理解② 実習終了者の報告を通じて、目標・課題を考察する。	講義	4		
9	実習に関する理解③ 実習終了者の報告を通じて、目標・課題を考察する。	講義	4		
10	実習計画①「実習計画書」「実習プログラム」「実習計画書」の意義を学ぶ。	講義	「学外実習の手引」を熟読する。	4	
11	実習計画②「実習計画書」「実習生個人票」を作成する。	講義	「実習計画書」「実習生個人票」を作成する。	4	
12	実習計画③「実習日誌」「実習評価票 (自己評価用)」「実習を終えて」の書き方を学ぶ。	講義	学外実習の手引」を熟読する。	4	
13	実習計画④「実習計画書」「実習生個人票」を完成させる。	講義	「実習計画書」「実習生個人票」を作成する。	4	
14	実習巡回指導①「実習計画書」「自己評価票」「実習日誌」をもとに、体験的学びをフィードバックする。	指導	「自己評価票」に実習の達成状況を記入する。	4	
15	実習巡回指導②「実習計画書」「自己評価票」「実習日誌」をもとに、体験的学びをフィードバックする。	指導		4	
試					

【2022 年度/専門科目領域/専門科目群/人間コミュニケーション学科・福祉心理学科】

総合評価割合 (%)		達成度評価					合計
		試験	レポート	成果発表	ポートフォリオ	その他	
		0	0	0	0	100	
総合 力 指 標	知識・技術力	0	0	0	0	30	30
	思考・推論・創造する力	0	0	0	0	20	20
	協調性・リーダーシップ	0	0	0	0	0	0
	発表・表現伝達する力	0	0	0	0	10	10
	コミュニケーション力	0	0	0	0	0	0
	取組みの姿勢・意欲	0	0	0	0	10	10
	問題を発見・解決する力	0	0	0	0	30	30
評価のポイント							フィードバックの方法
評価方法	行動目標	評価の実施方法と注意点					
試験	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
レポート	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
成果発表	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
ポートフォリオ	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
その他	①	✓	指導に対する取り組み状況、「実習施設情報」「実習計画書」「実習生個人票」作成に関する達成度等によって評価する。				個別にフィードバックする。
	②	✓					
	③	✓					
	④						
	⑤						
	⑥						
備 考							
他 担 当 教 員	渡邊隆文、田村正人						
教員の実務経験	梅沢佳裕：ソーシャルワーカーとして7年の実務経験。渡邊隆文：社会福祉士取得後6年の臨床経験。田村正人：社会福祉士として認知症高齢者や知的障害者、精神障害者の成年後見人の受任や障害者の権利擁護法人の運営をして8年の実践経験						
実践的授業の内容	教科書に記載されている一般的事項を教えつつ、社会福祉士としての教員自身の実例を示し、その実践知と教科書に記載されている理論知を比較しながら学習する。						
そ の 他	今後の新型コロナウイルス感染症の社会情勢によって再度シラバスの変更が行われることもある。全15回が登校型授業（対面授業）であるため、大学が示した感染症予防対策の指針を遵守すること。また感染症予防対策の観点から、教員の指示に従わない行動をとった場合には受講を認めないことがある。その場合、授業は欠席として取り扱う。						